資料１２

”三田らしい”活力と交流のあるまち　～にぎわいづくり～

16　農業の振興

1　10年後に目指したい将来像

農村の魅力が再認識され、若者や定年退職者の田園回帰の志向が高まるなかで、移住・定住者を増やし活力ある農村コミュニティが形成されています。大阪・神戸など大都市近郊という地理的優位性を活かすため、産官学の連携等による市内産農畜産物の6次産業化・ブランド化により商品開発や販路の拡大、新たな三田ブランドが海外から高い評価を受け「農」が三田の顔となっています。障害のある人が農へ参加する農福連携を積極的に支援すると共に、若者や高齢者、社会の中で生きづらさを抱えている人など農業に関心がある人が農業に従事する仕組みが確立しています。

2　10年後に避けたい三田の状況　　3　10年後に目指したい三田の状況

	2　10年後に避けたい三田の状況		3　10年後に目指したい三田の状況	取り組み
A	農業者の高齢化、後継者不足や獣害被害の拡大により耕作されない荒廃した農地が市内に多く発生しています。	➡	集落で描いた将来像に基づき、多様な担い手やパートナーとの連携により、変化し続ける課題を乗り越え、活力と魅力のある農業が展開されています。	①③
B	収益性が低く、また農業の効率化が進まないため、農業が魅力ある産業でなくなっています。	➡	ICTやドローン等を活用したスマート農業への取組みが進み、生産性や品質、収益性の向上また労働力の低減が図られ、魅力ある産業へと成長しています。	②
C	三田産農畜産物の特色が乏しく、三田産農畜産物の魅力が伝わっていません。	➡	地理的優位性を強みに販路が拡大し、ブランド化した三田産農畜産物が国内外に流通しています。	④
D	市民に「農」の必要性や重要性が理解されず、農業者の生産意欲の低下やコミュニティが希薄化し農村の活力が低下しています。	➡	農業者、市民、事業者、大学、行政等が互いに農の価値を再認識し、知恵を出し合い、共創の考えのもと、三田の農村に活力が生まれています。	③⑤
E	子どもたちの農畜産業への関心が低下し、食の大切さや地産地消への関心が低くなっています。	➡	子どもたちへ食の大切さを伝えることで、子ども達が大人になっても地産地消への関心が高まり、市内での農畜産物の利用拡大が図られています。	⑥
F		➡		

4　取り組み

市民

◆美しい農村風景を次の世代に引き継ぐため、農地の保全に努めます。
◆農業・農村への理解を深めるため、農村訪問や農業体験に参加します。
◆農業・農地を守るため、三田産農畜産物を積極的に購入します。
◆食の大切さを学ぶとともに、ふるさとに愛着が持てる食育に取り組みます。

事業者・団体等

◆安全安心な農畜産物の提供、農村のよりよい維持管理や知恵や技術の伝承に努めます。
◆先進技術を取り込み、作物の品質、生産性や作業効率の向上を図るなど、所得向上を目指します。
◆三田産農畜産物のブランド力を向上するとともに地産地消や地産外商を推進します。

行政

①　農村の再生

コロナ禍の影響等により農村の魅力が再認識され若者や定年退職後の居住地として田園回帰の志向が高まるなかで、UIJターンにより人を呼び込む支援策により農村コミュニティを構築します。また、ため池改修や老朽化する水利施設等の農業用施設改修などを進めるなど農業を継続するために必要な支援を行い農業の振興を図ります。

②　スマート農業の活用で魅力ある農業を創造

作物栽培の品質管理や農作業の負担軽減、農作物の鳥獣害対策などへ、ICT等を用いた農業用ドローンや遠隔捕獲システム等を活用し、生産性や品質、収益性の向上、また労働力の低減を図り、効率化で生まれた時間で余暇を楽しむ、収益性の向上で生活に余裕を生む、新たな魅力ある農業を創造します。

③　多様な担い手と新しいパートナーの発掘と連携の促進

人・農地プランの推進で未来の集落の姿を見える化し、集落の特性に合わせた多様な担い手が自信を持って営農できる環境づくりを支援します。加えて、関西学院大学をはじめとする産官学連携のもと、知恵を出し合い、共創の考えのもと、農畜産業の活性化を図ります。

④　三田のブランド農畜産物づくり

大阪・神戸など大都市近郊にあり、高速道路の結節点であるという三田の強みを生かし、戦略的に黒大豆枝豆の生産拡大、観光資源だけでなくスイーツや加工品への三田いちごの積極的な活用、販路拡大を海外に求める三田牛など、三田産農畜産品ブランド化と6次産業化の支援を進めます。

⑤「農」への理解と農福連携の仕組みづくり

農業の大切さが市民に理解されるよう、苗の植え付けや草刈り、収穫体験など農業を学ぶ機会を作り、身近にある農業の魅力を知ってもらえる取り組みを推進します。また、障害のある人が農へ参加する農福連携を積極的に支援すると共に、若者や高齢者、社会の中で生きづらさを抱えている人などで農業に関心がある人が農業に従事できる仕組みを確立します。

⑥　未来を担う三田の子どもたちへの食育の充実

地元産の農畜産物を積極的に活用した学校給食を通して、子ども達に地域の食文化や農業状況の理解を促し、農畜産物への感謝の心を育むとともに地産地消を進めることにより、新鮮で安全・安心な三田の農畜産物の利用拡大を図ります。

5　成果指標

新規・継続	取り組み	指標名	単位	指標の目指す方向性	累計・単年度	基準値（基準年）	目標値（R8）	指標の算出方法・算出根拠
継続	①③	認定農業者数及び認定新規就農者数	経営体	↑	累計	88（R2）	100	市認定数
継続	②	鳥獣害の農作物被害額	千円	↓	単年度	10,121（R2）	7,000	農作物被害状況報告
新	④	三田牛の出荷頭数	頭	↑	単年度	209（R2）	250	三田牛の出荷頭数

◆主要な条例・規則◆

三田市鳥獣被害対策実施隊設置規則

◆関連計画◆

三田市農業基本計画、三田市農業振興地域整備計画、三田市食育推進計画